

コネギ（周年栽培）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作												
型												
主な作業	一不灌 追 灌 作織水 肥 水 目布 播被 種覆			水 収除 切 穫塩 り			播二不灌追灌 水収 種作織水肥水 切穫 前目布 り			播三不灌追灌 水収 種作織水肥水 切穫 前目布 り		

技術体系

1 作型の特徴

実生による葉ネギ栽培で、移植は行わない。播種から収穫までの日数は高温期で約 60 日、低温期で約 110 日で草丈 50cm 程度に達したとき収穫する。栽培は雨よけビニールハウスを用い、年間 2.5～3 作を同一圃場で行い、播種期を組み合わせる周年生産する。

2 適応地域

地域（阿蘇、上益城地域の高冷地を除く）

3 栽培条件

(1) 温度

発芽適温は 15～20℃程度、10℃以下では著しく遅れ発芽率も低下する。生育適温は 20℃前後。ただし、気候適応性は高く、種子は 2℃の低温でも長期間たてば発芽する。一方、35℃の高温でも発芽する。

(2) 光 自然条件では問題ない

(3) 土壌条件

土壌に対する適応性は広い。

粘質土壌で良く生育し、品質、収量とも優れ沖積土地帯に産地がある。

根の酸素要求量は大きく排水の悪いところでは生育が劣り、灌水が続くと枯れる。

4 施設装備

- (1) ビニールハウス
- (2) 灌水施設
- (3) 調整機（皮むき機）
- (4) 予冷庫

5 経営目標

- (1) 収 量 2.9 t/10a
- (2) 投下労働時間 2400 時間/10a
- (3) 所 得 率 55%
- (4) 経営規模 30a
(家族労働力 2 人の場合)

栽培技術

1 本圃の選定

砂壤土および沖積土で日当たりが良く、肥沃で排水の良いところ、雨期でもハウス内に水が入らない場所を選定する。

2 品 種

夏まき用品種 若香ゴールド、黒泉夏用
冬まき用品種 若香、黒泉冬用、雷王
兼用品種 雷山

3 播種準備

(1)排水対策

雨水等がハウス内に入ると収穫後の腐敗等の原因となるので、雨期でも水が入ってこないように十分な排水対策を行う。

(2)土づくり

ネギの酸素要求量は多く、不足すると生育が悪くなる。また、同じ圃場で年間 2.5 ～ 3 回栽培するので土づくりを十分行う。

堆肥の施用は、初作地 5 ～ 7 t / 10 a、その後は 2 ～ 3 作毎に 3 ～ 5 t を補給する。

また、連作すると塩類濃度が上昇し、生育障害の原因となり、収量、品質低下を招くので 1 年に 1 回は灌水等をし除塩する。

(3)土壌消毒

土壌病害虫および雑草を防除するために年に 1 回土壌消毒を行う。

(4)施 肥

基肥は播種の 7 ～ 10 日前に全面に施用し、畦立てする。

第 1 作目施肥量 (K g / 10 a)

項 目	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
初作地	基肥	10	30	10
	追肥	20	14	12
	全量	30	44	22
連作地	基肥	10	30	10
	追肥	10	11	4
	全量	20	41	14

第 2 作目以降の基肥量

EC 値	施用基準
1.0 以上	無施用
0.7 ～ 0.9	基準の 1 / 3
0.3 ～ 0.6	基準の 1 / 2
0.3 以下	基準どおり

(5)播種前の灌水

土が極度に乾燥している場合は、発芽揃いを良くし、初期生育を確保するために播種前に十分灌水しておく。

(6)播種

播種は、条間 15 ～ 20cm で播種機または手まきにより行う。播種量は冬期 6 l / 10 a、夏期 4 l / 10 a とする。多すぎると徒長して茎が細く下級品となり、少ないと太りすぎてコネギとしての商品性が低下する。

(7)発芽までの灌水

播種後の水分不足は発芽むらの原因となるため、播種から発芽までは十分灌水し、地下部まで湿りがあるようにする。また、乾燥防止のため不織布等で被覆する。発芽後は立枯れが発生しやすいため灌水はやや控えめにする。

4 生育中期の管理

(1)追肥

草丈 10 ～ 15cm で本葉 2 ～ 2.5 枚期に追肥を行う。10 a 当たりチッソ 4 ～ 5kg を基準に施すが、連作地においては追肥を必要としない場合もある。

(2)温度管理

平均気温が 17 ～ 25℃ の時に最もよく生育し、10℃ ではその約 2/3、7℃ では半分程度の生育となる。夏期高温期には昼夜とも生育適温以上になるのでサイドは解放し、できるだけ温度を下げる。また、厳寒期は保温により生育適温の確保に努めるが 25℃ を越えないように管理する。生育中期以降の蒸し込みは、ネギが軟弱になり葉折れが増えたり、べと病、灰色かび病が発生しやすい原因となるので注意する。また、サイド換気時に強風で倒伏することがあるので防虫を兼ねてサイドにネットを張る。

(3)生育中期の灌水

生育中期（草丈 25 cm 程度）より灌水を控え、収穫前には無灌水とする。この期間のネギは、過乾燥になると生育が著しく劣り、多すぎると軟弱に生育し品質が低下するので土壌表面が若干湿っている程度（土を手で押し、土が手に付着しない程度）に管理する。p F 2.3 を灌水点とする。

5 生育後期の管理

(1) 灌水

草丈が 35 ～ 40cm までは灌水量を徐々に減らし硬化を図る。急激に灌水量を減らすと葉先枯れが発生するので注意する。

(2) 水切り

草丈が 40cm に達し、収穫の 2 週間前頃より水切りを行う。これは葉色を濃くして商品性を高めるとともに、収穫後の急激な品質低下を防止する。ただし、日中のしおれがひどくなるような極端な水切りはしない。軽くしおれる程度であれば葉面が湿る程度に散水する。

6 収穫調整

(1) 収穫

草丈が 50cm 前後になったら収穫を開始する。収穫は、葉温が低い早朝に行い、1 時間以上水揚げをする。

(2) 調整

水揚げ後、外葉をはずし本葉 2 枚になるように調整し 100g 束とする。